

奈良・トレドの国際交流に関わって

— 活動報告を兼ねて —

アルバレス・ホセ

はじめに

筆者は、2012年に、奈良・トレド姉妹都市提携40周年記念事業に関わった。様々な講演会や、展覧会や、コンサート、中でも「スペイン文化と音楽の夕べ」の企画構成に、力を注いだ。市に、予算がないとのことであったので、奈良・トレド姉妹都市提携40周年記念事業実行委員会を立ち上げ、民間活力を最大限に活かし、多くの人々の協力によって、様々な行事が、成功裏に終わった。

この時、奈良市側は、「五年後は市の主導で（市長談）」との事であったが、奈良・トレド姉妹都市提携45周年の2018年は、予算がなかった様で、何ら奈良市主催の記念行事は行なわれなかったと、漏れ聞いていた。

市という行政区画単位では、事業規模も大きくなり、それ相応の予算規模が必要になるので、記念行事開催は不可能であったのかもしれないが、2012年に力を貸した民間の個人や団体に対して、何の連絡もなく記念行事不開催は決定されたことには、いささか、疑問を感じる。

姉妹都市提携は、単に二都市の公的関係を示すものではなく、両市の友好親善関係を、公にしたものである。それならば、小規模でも、その「心」の現れとしての行事が、何らかのかたちで、有ってもよかったのではないかと考えてしまう。

それでは、公的機関の関連行事は、皆無であったのか。そうではない。奈良・トレドの友好の証としてオリーブの植樹が行なわれた『トレドの森』に隣接する二名公民館では、奈良・トレド姉妹都市提携45周年記念事業（45周年は2017年）と二名公民館の創設40周年記念行事（40周年は2018年）を連動させて、トレドの文化の講演会を企画し、2017年度末の2018年3月に行なうこととしている。

この、在り様の違いから、姉妹都市・友好都市・友好親善という問題を考えてみたい。更に、姉妹都市の関係を高めるために寄与できる啓蒙を中心とした講演は如何にあるべきかの雛形も考えてみたい。

友好関係の維持

奈良・トレドの友好の証としてオリーブの植樹が行なわれた『トレドの森』に隣接する二名公民館では、先述のごとく、奈良・トレド姉妹都市提携 45 周年記念事業（45 周年は 2017 年）と二名公民館の創設 40 周年記念行事（40 周年は 2018 年）とを連動させて、トレドの文化の講演会を企画し、2017 年度末の 2018 年 3 月に行なうこととしている。

つまり、今日でも、二名公民館とその地域に於いては、『トレドの森』の存在も手伝ってか、スペインとの友好関係を促進させる催しが、確実に行なわれている。

その状況は、『トレドの森』の向かいにある二名中学校や、近所の二名幼稚園の等のホームページからも、うかがい知ることができる。また、二名公民館の公報からも知る事ができる。

では、遠く離れた友好都市間の友好関係の維持は、如何なる方法で可能になるのだろうか。

重要なことは、表面的な行政の動きではなく、それぞれの地域住民の、意識の問題であろう。この点で、筆者が、一番大きくその当事者間の温度差を見いだしたのは、住民に対する、行政のアシスト、つまり、姉妹都市の情報公開の差である。

まず、トレド市を中心とする組織、トレド市、トレド県等の地方公共団体の姉妹都市情報の公開について見て、奈良市のそれと比較してみよう。

姉妹都市や友好都市のそれぞれの市民が、相手方の姉妹都市なりに興味を持ち、その情報を得ようとするとき頼りになるのは、観光案内のガイドブックや、相手の都市のオフィシャルホームページや、観光ガイドのサイト等であろう。

しかし、まずは、何処が姉妹都市なのかを知る必要がある。そこで、自らの居住地の地方公共団体のホームページ等で、姉妹都市がどこかを調べることとなる。

さて、トレド市等の地方公共団体で姉妹都市を調べると、その都市の市役所のホームページへのリンクや、地誌や人口、産業構造等の基本情報が示されている。更に、観光地についての情報がスペイン語で載せられている。2013 年 3 月には、奈良市と周辺の観光情報は、試しにプリントアウトしてみると、A4 版で 9 ページを超えていたのに、残念なことに、今日（2018 年 2 月 17 日現在）では、大幅に縮小されてしまった。これは、スペインの今日の経済状況に影響されて、トレド市における姉妹都市関連の予算が削られた事によるものである。如何なる分野を削るかについては、奈良市の姉妹都市関連の対応も参考にした上で、決定されたようだ。

事実 2013 年の時点で、それにあたる、奈良市側のホームページは、A4 版で 1 ページに収まってしまいう程度であったので、トレド市側も縮小に踏み切ったようだ。

これも残念なことには、2013 年段階ではトレド市役所のホームページには、トレド市と

トレド県との観光局のホームページへのリンクがあり、そこには、トレドの観光地、文物についての日本語による説明のページが存在していた。しかし、そのページも、今日では、トレド市のホームページからは、なくなり、限られた予算の中での対応策として、カステイージャ・ラ・マンチャ 州の観光局と、スペイン政府観光局と、スペイン世界遺産協会 Ciudades Patrimonios de Humanidad のホームページの、日本語のページにゆだねられることとなった。

以前は、ほとんどの姉妹都市について、その都市のある国の言語で、観光情報の開示が同様に行なわれていたのであるが、スペインの経済状況の悪化によって、縮小されてしまった。

しかし、ほかのホームページ等へのリンクも含めた市民への姉妹都市関連の情報発信の量ということでは、奈良市は、トレド市に大きく後れを取っている。

この点は、以前、『奈良・トレド姉妹都市提携記念事業』に関わったものとしては、悲しくて仕方がない。

奈良市の姉妹都市関連のホームページへの記述は、ここで示すまでもなく、日本語で検索可能であるので、ここでは取り上げないこととする。

それでは、姉妹都市関連の予算が削られていく奈良市・トレド市両自治体には、どのような関係が、求められるのであろうか。今日の具体例を見たうえで、考えてみたい。

市民レヴェルでの友好関係

まず、奈良市の側から見てみよう。先ほども述べたように、二名公民館では、姉妹都市の友好親善の証としての『トレドの森』が公民館に隣接していることもあって、今年も姉妹都市関連の行事が行なわれる。筆者も、2013年に引き続き、講演を依頼されている。つまり、機会あるごとに、市民が、奈良・トレド姉妹都市提携の事実を思い出し、確認し、何らかの行動をしようとしていることがわかる。

奈良市、二名の場合、『トレドの森』とそれに隣接する公民館、中学校、幼稚園が、中心となり、地域住民や、子供たちをも巻き込んだ行事が、地道に続けられている。この状況がある限り、「心」の現れとしての友好関係は、維持されると考える。具体的には、以下のホームページ等が、その参考例となろう。

<http://www.naracity.ed.jp/kin02/index.cfm/90,12106,15,html>

http://manabunara.jp/contents_detail.php?frmId=4028

<http://ubusuna2.cocolog-nifty.com/blog/2017/11/post-4.html>

また、奈良市において、行なわれる『あるくん奈良まちなかバル』も、スペインのバルを意識したものであるという事は、2010年の開催当初から変わらぬようであり、その立ち上げにかかわった方々も、トレドとの姉妹都市交流もその背景にあると述べている。

では、トレド市では、どうなっているのかを見てみよう。市民が広く関わるといって、奈良市との関連を示すものを、トレドで探してみた。

市民生活に広く関わり、奈良市の『トレドの森』とよく似た存在として、『奈良市ゾーン』が、挙げられよう。トレド市旧市街の北側の、新市街地に位置する。スペイン語では、“Zona Verde de la Ciudad de Nara”と呼ばれていた地域で、今日では、省略されて、“Zona Verde Ciudad”と呼ばれている。緑地の中央にプロムナード風に、散策路が設けられていて、その両端の出入りに、奈良市が寄贈した石灯籠が設置されている。ロータリーに面した入り口には、『奈良市公園』と漢字表記の石碑もみられる。

地域が、奈良との友好親善の証の公園を持っているということで、奈良の知名度も比較的高く、“Zona Verde Ciudad”にほど近い公立の小学校（幼・小・中連携校）は、『奈良市学校』とよばれている。そのホームページには、玄関にあるタイルによる表示が示されている。（<http://ceip-ciudadnara.centros.castillalamancha.es/>）

また、日本との文化交流の一コマが、映像記録としてもホームページの冒頭で、紹介されている。

ちなみに、2012年の、奈良・トレド姉妹都市提携40周年記念事業では、奈良市立の東登美ヶ丘小学校とインターネット交流を行なっている。

奈良市、トレド市、双方とも、市民レベルでの友好意識は、維持されているようにみえる。

では、今後地方公共団体が、多額の予算を用いずに、友好関係を続け、深めるためには、如何なる施策が必要とされるのだろうか。

市役所内に、トレドとベルサイユの名を冠した部屋を作ったり、植樹したオリーブを、市役所の敷地内にも移植したりすることも、一つの施策であろうが、市民の地道な活動を、十分にサポートすることが、最も効果的であると考ええる。

そのために、二名公民館の、持続可能な取り組みは、大きく評価されるべきであろうと考える。市民自身が、友好都市を知り、自分たちの住む奈良の情報をも発信する。そのような関係が、真に友好関係を持続させ、促進させることとなりはしないだろうか。

友好関係の促進

友好関係の促進には、互いを知ること重要だが、何故、如何なる理由で姉妹都市になったかを知ること重要である。特に、奈良・トレド姉妹都市提携は、実に素晴らしいコンピネーションであると言える。

したがって、奈良・トレド両市の市民が、如何に姉妹都市として相応しいのかを知ったうえで、友好親善の促進に当たることが、大切であろうと考える。

実際に、奈良市とトレド市との姉妹都市提携がなされたのは、1972年9月11日であった。日本とスペインとの間の姉妹都市提携第一号で、奈良市が海外の都市と結んだ友好・姉妹都市提携の第二号である。ちなみに奈良市との姉妹都市第一号は、大韓民国の慶州市で、1970年4月15日である。

話を、奈良・トレド両市の姉妹都市提携に戻そう。その、発端は、奈良市側にある様で、1968年に(財)世界青少年交流協会が派遣した訪イベリア団が、トレド市を訪問した際に、奈良市長の姉妹都市提携の意向をトレド市長に伝えたところ、トレド市側も奈良市との姉妹都市提携を強く要望したことから、1972年9月11日にトレド市で姉妹都市提携が行なわれたものである。このことは、奈良市のホームページにも記されている。

トレド市側も強く要望したと、言われているが、この点は、事実であろうと考えられる。1965年頃(ちょうど1964年の東京オリンピックが終わってすぐのころ)と、記憶しているが、在阪のイスパニア国名誉領事(当時の名称)であった筆者の父 José Luis ÁLVAREZ-TALADRIZ が、奈良市の歴史に関する資料を、トレドに送っていたのを、記憶している。

奈良・トレド両市の姉妹都市提携に向けて、歴史的類似性に鑑み、まさに、最良の組み合わせであると、話していたことを、記憶している。

その中身の、詳細は記録がないが、筆者が2012年に改めて奈良・トレド両市の歴史を振り返り、確かに最良の姉妹都市関係だと再確認したのは事実である。

古く、首都機能を有する町であったこと、文化の中心地であったこと、文化伝播の帰着点であったこと、という3つの類似性を有している。また古くから、宗教的要衝であったことも共通点として挙げられよう。

奈良市、トレド市、お互いが、類似性を把握したうえでの姉妹都市提携であったことを、うかがい知ることができる。

普段の友好親善活動と、その基礎にある奈良市・トレド市両自治体及び市民による、その共通性と差異の正しい認識が、今後の友好親善に、大いに寄与するものと考える。

では、友好親善活動推進に寄与し得る啓蒙活動は、どの様な形があるであろうか。

友好親善活動推進に寄与し得る啓蒙活動

筆者自らが、講演依頼を受けているので、その講演の内容の例を示して、友好親善活動の推進に寄与し得る講演の雛形を考えてみたい。

2018年3月に行なう予定の講演のプランをしめすことで、その例示とする。

タイトル : 『トレドと文化』(二名公民館からこのタイトルで依頼を受けた)

以下に、講演の内容を概観する。

(現時点では、最終打ち合わせが終了していないので、このままの講演が実際になされるかどうかは、未定である。)

(講演内容の部分で、(PP1)のように示したものは、パワーポイントで見せる画像の通し番号である。画像は、適宜挿入する。)

『トレドと文化』

— 奈良市のトレドとトレド市の奈良 —

導入

本日は、奈良市の姉妹都市であるスペインのトレド市について、お話をいたします。両市の姉妹提携は、昨年9月11日、45年を迎えました。この提携は、スペインの都市と日本の都市との姉妹提携の第1号です。しかも、ともに、古い首都であり、宗教・文化の中心であった都市という共通点を持っております。これほど素晴らしいマッチングはないであろうというぐらいの組み合わせだと、わたくしは思っております。

二名公民館にお見えの皆さんは、お隣のトレドの森の存在はご承知でしょうから、副題の「奈良市のトレド」とは何処の事かは、すぐにお分かりだと思います。しかし、「トレド市の奈良」については、そういうわけにはいかないと思います。

そこで、今日は、そのトレドを知り、さらに日西友好を進めていただくために、スペインにおけるトレドの位置付と、奈良市との共通点を中心に話を進めたいと思います。とはいっても、「スペインについてもどうもようわからん。」と、おっしゃる方もいらっしゃるかもしれませんが、スペインを概観し、トレドについての知識を得たうえで、話を広げていこうと思います。

まず、スペインと日本の位置関係と、スペインの中でのトレドの位置を、念のため確認しておきましょう。(PP1) 以前から、何度か講演に用いたスライドなのですが、これでは、あまり明確ではないといわれる方もおられましたので、(PP2)を用意しました。



これだと、緯度経度が比較的把握しやすいかと思います。日本は、アジアの東のはずれ、スペインは、ヨーロッパの西のはずれ、そう、遠いのです。飛行機で、16時間ぐらいかかります。

ところが、その割に、関係は深いのです。実は、2013～2014年が、日西修好400年で、関連イベントがありました。でも、どうして、二年間が400年なのか、2013年が400年ならば、2014年は401年のはず。でも、どういうわけか、400年なのです。これは、伊達正宗仙台藩主が支倉常長を使節として、メキシコ経由でスペインに送ったことを記念しているのですが、日本を出たのは、1613年。スペインに着いたのは、1614年だから、日本にとっては2013年が400年祭、スペインにとっては、2014年が400年祭なのです。

奈良市のトレドとトレド市の奈良



カスティージャ・ラ・マンチャ州

奈良市のトレドとトレド市の奈良



トレド県 (Toledo)

奈良市のトレドとトレド市の奈良



トレド市の旗と紋章

州・県・市という行政区画が出てきました。この辺りも説明を加えるべきなのかもしれませんが、今日は、なんとといってもトレドが本題なので、いくつかのスペインについての偏見や誤りを取り除くことで、スペインの説明としたいと思います。

い 思い込みによる誤り 地理的問題 「南国スペイン」 は、本当か？

まず最初に、深入りせず一言でかたづけたいのは、「闘牛・フラメンコは、富士山・芸者である。」ということです。この点に関しては、今回はこれだけにします。

次に、い思い込みによる誤り 地理的問題 「南国スペイン」 は、本当か？ということで、少し、さっきの地図を見ながらお話ししましょう。(PP7)

奈良市のトレドとトレド市の奈良



スペインと日本

「南国スペイン」というフレーズをよく耳にしますし、活字などでも目にします。これが、私には、どうも気に食わないのです。おそらく、この「南国」という語は、自分の住んでいる土地よりも南に位置する土地や、客観的に見て、南に位置する国である場合に用いられる語であると考えられます。そうすると、日本にとって、または、日本人にとって、スペインは南国でしょうか？大きな疑問です。(PP. 8)

奈良市のトレドとトレド市の奈良



スペインの地図

さて、マドリッドを出発して、(マドリッドは、スペインのへそと言われるのですが、)

緯線に沿って、日本まで線を引くと、どのあたりに来るかご存知でしょうか。じつは、秋田や盛岡あたりに来ます。

スペインのイベリア半島の最南端のヒブラルタル（英名ジブラルタル）緯度ほぼ北緯 36 度から、同じように線を引いてきますと、地図でご覧のあたりになります。ちなみに奈良市の緯度は、北緯 34 度 40 分ほどです。カナリア諸島をのぞくスペイン本国は、奈良よりも北国ということになります。(PP. 9)

更に、考えるべきことがあります。それは、スペインが、海拔の高い国であるという事です。「旧来の西ヨーロッパ諸国の中で、最も海拔の高い首都を持つのは？」という質問は、ちょっと意地悪なクイズとして知られています。答えは、スイスではなく、スペインなのです。マドリッド市の、平均海拔は、700 メートルを超えています。ちょうど生駒山頂と六甲山頂との中間ぐらいの高さです。近畿では、寒さの厳しいところとして、六甲山小学校のストーブの火入れ式が、ニュースになりますが、マドリッドの人々は、いえ、スペイン中央台地（メセタ）に住む人々は、それぐらいの温度のところで生活しているのです。そのあたりも頭に入れておいてください。(PP. 10)

奈良市のトレドとトレド市の奈良



スペインの地勢

トレド市のあるカスティージャ地方には、こんなことわざがあります。「我々の土地には、

三か月の地獄と九か月の冬がある。」つまり、冬が厳しいのです。ここで、3か月の地獄は、夏の暑さを言うのだから、やっぱり暑いのではとおっしゃるかもしれませんが、これは暑さというよりは、むしろ、日格差の激しさを示したもののなのです。

勿論、アンダルシアや、バレンシアに、高温になる地域があることは、事実ですが、沖縄を含む日本を、「日本は南国である」と、言わないのですから、「南国スペイン」も、不適切な表現ということになるでしょう。

スペインは、日照時間の非常に多い地域があることから、「太陽の国」といわれることがあります。これは、ヨーロッパ諸国の平均日照時間に比べてはるかに多い日照時間を有する国であるので、適切な表現と言えるでしょう。(PP11)

年間の日照時間が、3500時間に迫る地域も存在します。夏季などは、一日の日照時間が10時間を超えることも珍しくありません。

奈良市のトレドとトレド市の奈良



España Hace Sol

さて、この辺で、本題であるトレドの話を始めましょう。

トレドの歴史

スペインの中での位置は、先ほどの行政区分図でお分かりでしょうから、町の歴史から入っていきましょう。

トレドが街としての体裁を持ったのは、紀元前からだと言われています。タホ川左岸の

ケルト・イベロ族の城塞都市(PP12、13)であったようです。サンタ・クルス病院博物館で、当時の様子を展示から知ることができます。

奈良市のトレドとトレド市の奈良



トレドの城塞

紀元前 193 年には、Marco Fulvio Nobilior が、この地を手中に収め、ローマの支配下にはいり、Toletum と呼ばれるようになりました。今日の名称 TOLEDO は、この Toletum に由来します。その後、ローマ化が進み街としても発展します。

ローマ水道橋(PP14)や、河岸のローマン・サークル(現存する)も(PP15)作られ、また、円形劇場も(PP16)作られました。ローマ帝国の都市としての機能を十分に備えていたことがわかります。勿論、「ローマ街道」も(PP17)整備されていました。

奈良市のトレドとトレド市の奈良



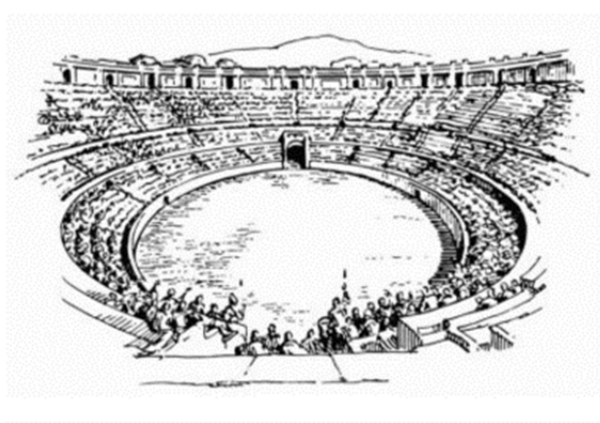
トレド ローマ期水道橋

奈良市のトレドとトレド市の奈良



トレドのローマン・サークル

奈良市のトレドとトレド市の奈良



トレドの円形劇場

奈良市のトレドとトレド市の奈良



トレドのローマ街道

イベリア半島が、ローマ帝国、後に西ローマ帝国の属州ヒスパニア（帝政期にはヒスパニア・タラコネンシス、ヒスパニア・バエティカ、ルシタニアの3州に分割）となり、その支配は、5世紀初頭まで続きます。

409年ごろ、ゲルマン系種族や、西ゴート族の侵入を受けて、その支配下に入り、その後、トレドは、西ゴートのイベリア半島における拠点都市として栄えます。560年に西ゴート王国の首都がトレドに移され、イベリア半島における中心都市としての地位を固めます。

トレドの街自体は、400年にはトレド教会会議がひらかれたほどスペイン・キリスト教の中心地となっていました。

589年レカレド(Recaredo)王は(PP18)、第3回トレド教会会議を開き、ローマ・カトリックへの改宗を決めました。ここに、トレドのスペインにおけるカトリックの総本山としての地位が確立しました。

711年ムーア人のタリーク・イブン・ズィヤード(Tāriq ibn Ziyad) (PP19)によりイベリア半島占領が始まりました。

1085年5月26日に、カスティリヤ王、アルフォンソ(Alfonso)6世が(PP20)トレドに入城するまで、トレドは、ムーア人の版図となりました。

この、所謂モサラベ(Mozarabe)時代には、首都としての機能は、コルドバ等に移ったりしたものの、トレドは、依然として文化の中心でありました。

12世紀から13世紀、「トレドの翻訳グループ(Escuela de traductores de Toledo)」と呼ばれる学者が活躍(PP21)しました。イスラム教徒、ユダヤ教徒、キリスト教徒の学者・文化人の協力によって、古代ギリシア・ローマの哲学、神学、科学、文化等の文献が、

古典ギリシア語やヘブライ語やアラビア語からラテン語へ、さらに俗ラテン語の一つであるスペイン語へと翻訳されました。

奈良市のトレドとトレド市の奈良



レカレド王

奈良市のトレドとトレド市の奈良



タリク・イバン・ズイヤド

奈良市のトレドとトレド市の奈良



アルフォンソ 6世

奈良市のトレドとトレド市の奈良



トレドの翻訳グループ

これらの文化的行為の成功には、アルフォンソX・エル・サビオ(El Sabio)の貢献度も大きいとされています。(PP21 の中央)

これらの文献が、ヨーロッパ・ルネサンスに与えた影響は、大きいものであると、言われています

トレド自体に目を向けると、3世紀にローマ人によって建てられた、アルカサルは、アルフォンソ6世とアルフォンソ10世とによって修復され、さらに1535年に復元され、今日に至っています。(モニュメントについては後述する。)

スペイン(España)は、一国としてまとまる過程で首都らしい首都を持たなかったのですが、トレドは、長らくその機能を果たしました。

1561年に、フェリペ2世(PP22)が、首都をマドリッドに定めたのち、トレドは、文化・宗教の中心としての地位を保ちながらも、都市としての過度の発展から、逃れることとなりました。これを、「緩やかな衰退」と呼ぶ人もいますが、このことが、博物館都市と呼ばれる今日の状況を作り上げ、街自体が世界遺産になったことは、言うまでもありません。

奈良市のトレドとトレド市の奈良



フェリペ 2世

トレドのモニュメント

El Castillo de San Servando (PP23)

サン・セルバンド城

奈良市のトレドとトレド市の奈良



トレド サン・セルバンド城

La catedral de Santa María de Toledo (PP24~31)

トレド・サンタマリア大聖堂

奈良市のトレドとトレド市の奈良



カテドラル (1226~1493)

奈良市のトレドとトレド市の奈良



カテドラル（夜景） (1226～1493)

奈良市のトレドとトレド市の奈良



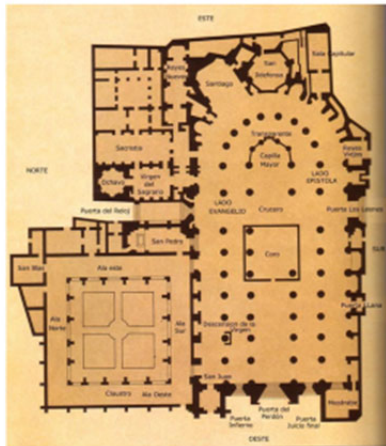
カテドラル（早朝） (1226～1493)

奈良市のトレドとトレド市の奈良



カテドラル (1226～1493)

奈良市のトレドとトレド市の奈良



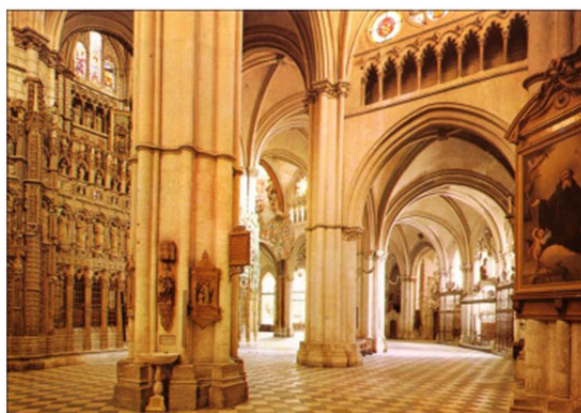
カテドラル (見取り図) (1226～1493)

奈良市のトレドとトレド市の奈良



カテドラル（中央祭壇）（1226～1493）

奈良市のトレドとトレド市の奈良



カテドラル（側廊入口）（1226～1493）

奈良市のトレドとトレド市の奈良



カテドラル (側廊) (1226～1493)

El Monasterio de San Juan de los Reyes (PP32～33)
サン・フアン・デ・ロス・レジェス修道院

奈良市のトレドとトレド市の奈良



サン・フアン・デ・ロス・レジェス修道院

奈良市のトレドとトレド市の奈良



サン・ファン・デ・ロス・レジェス修道院 (回廊)

El Museo de Santa Cruz (PP34~35)

サンタ・クルス (病院) 博物館

奈良市のトレドとトレド市の奈良



サンタ・クルス(病院)博物館(旧館)

奈良市のトレドとトレド市の奈良



サンタ・クルス(病院)博物館(回廊)

Museo de El Greco
エル・グレコ美術館

(PP36~38)

奈良市のトレドとトレド市の奈良



エル・グレコ美術館

奈良市のトレドとトレド市の奈良



エル・グレコ美術館(新館)

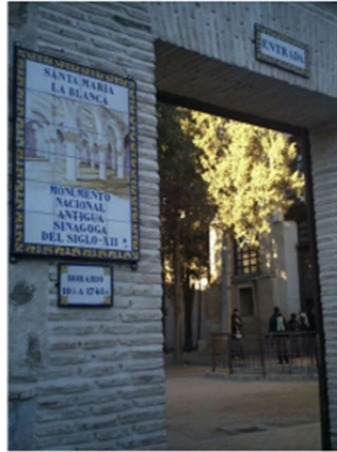
奈良市のトレドとトレド市の奈良



エル・グレコ美術館 (内部)

Iglesia de Santa María la Blanca (PP39～40)
サンタ・マリア・ラ・ブランカ教会

奈良市のトレドとトレド市の奈良



サンタ・マリア・ラ・ブランカ教会

奈良市のトレドとトレド市の奈良



サンタ・マリア・ラ・ブランカ教会(内部)

Sinagoga del Tránsito (o, Sinagoga de Samuel ha-Leví) (PP41)

トランシト教会

奈良市のトレドとトレド市の奈良



トランシト教会

Hospital de Tavera (Museo Duque de Lerma) (PP42~43)

タベラ病院 博物館

奈良市のトレドとトレド市の奈良



タベラ病院 博物館

奈良市のトレドとトレド市の奈良



タベラ病院 博物館 (パティオ)

Iglesia de Santo Tomé
サント・トメ教会

(PP44~45)

奈良市のトレドとトレド市の奈良



サント・トメ教会

奈良市のトレドとトレド市の奈良



サント・トメ教会 (内部)

La mezquita de Bab al-Mardum (後の) Iglesia del Cristo de la Luz
 キリストの光明教会 (PP46)

奈良市のトレドとトレド市の奈良



キリストの光明教会

Palacio de Galiana (PP47)

ガリアナ宮

奈良市のトレドとトレド市の奈良



ガリアナ宮

Alcázar de Toledo (PP48)

アルカサル

奈良市のトレドとトレド市の奈良



アルカサル

La Puerta del Sol (PP49)
太陽の門

奈良市のトレドとトレド市の奈良



太陽の門

La Puerta Nueva de Bisagra (PP50)
ビスグラ新門

奈良市のトレドとトレド市の奈良



ビスグラ新門

La Puerta Vieja de Bisagra

(PP51)

ビサグラ旧門

奈良市のトレドとトレド市の奈良



ビサグラ旧門

La Puerta del Cambrón

(PP52)

カンブロン門

奈良市のトレドとトレド市の奈良



カンブロン門

El Puente de Alcántara (PP53)
アルカンタラ橋

奈良市のトレドとトレド市の奈良



アルカンタラ橋

El Puente de Alcántara (PP54)
アルカンタラ橋

奈良市のトレドとトレド市の奈良



新アルカンタラ橋

El Puente de San Martín (PP55)
サン・マルティン橋

奈良市のトレドとトレド市の奈良



サン・マルティン橋

トレドの奈良

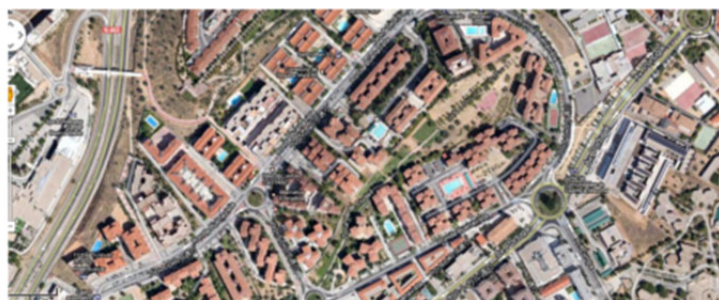
ここで、トレドの奈良をのぞいてみましょう。(PP56~60) トレドの旧市街の北東にトレド市の奈良は位置しています。旧市街外縁に広がる新市街を含む、Ciudad de NARA と呼ばれるゾーンがそこです。都市間を結ぶ幹線道に面してはいますが、緑地や広場も十分に整備された住居地域になります。

奈良市のトレドとトレド市の奈良



トレド市の奈良ゾーン

奈良市のトレドとトレド市の奈良



トレド市の奈良ゾーン

奈良市のトレドとトレド市の奈良



奈良ゾーン出入り口 その一

奈良市のトレドとトレド市の奈良



奈良ゾーン出入り口 その二

奈良市のトレドとトレド市の奈良



奈良市広場

一方、CEIP “Ciudad de Nara”（総合制学校／ Colegio de Educación Infantil y Primaria)は、トレド旧市街から北方向に離れた幹線道 Avda. de Francia, 8. 45005 Toledo にあります。その名の通り、幼稚園と小学校とが総合された総合制学校です。奈良市とも交流があり、漢字で奈良と入ったロゴマークを用いています。
(PP61～62)

奈良市のトレドとトレド市の奈良



CEIP "Ciudad de Nara"
Avda. de Francia, 8. 45005 Toledo
Teléfono: 925 257 966

トレドの奈良市小学校

奈良市のトレドとトレド市の奈良



Padres y Madres del C.P. Ciudad de Nara



トレドの奈良小のロゴ集

トレドの奈良市小のプレート



奈良とトレドとの共通点

今日のお話の初めに、「日本は、アジアの東のはずれ、スペインは、ヨーロッパの西のはずれ、そう、遠いのです。」と申し上げました。つまり、日本が極東と言われるように、スペインは、極西の地、つまり、ヨーロッパの人々にとって、地の果て“フィニステレ”で、あったのです。西と東の文化の吹き溜まりの古き都が、トレドと奈良であったということです。その視点で見て行くと、文化・宗教・政治の中心であった二つの街は、首都ではなくなったものの、文化・宗教の要衝としての地位を保ち、今日に至ったと言う点で、共通点を持っています。また、流入した文化の集積地であり、国内外への発信地ともなった点も、この二つの都市は、共通しております。

シルクロードを経て伝わった文物の集積地が奈良であったように、アラビア・東方世界・ヨーロッパ中央部キリスト教圏からの文物の集積地がトレドでありました。その点から見ても、トレドと奈良との姉妹都市提携は、この上なくマッチしたものであると言えます。

この、必然との言える関係を、市民レベルでも交流を促進し、発展させていければ、素晴らしいことだと思います。

講演の内容の概観は、以上です。

この様な形で、講演を行なうことで、トレドの歴史、観光名所、奈良との関係等々を

踏まえ、奈良市民の皆さんが、トレドに親しみを持ってうえで、トレドの人に、奈良の文物を発信してもらえば、さらに友好親善関係が、進むものと考えます。

結論に変えて

筆者は、元来音楽を中心とする芸術学や、音楽学を専門とする研究者である。したがって、音楽や、美術について紹介する視点を加えることを、強く望むものであるが、その為には、音楽や美術に特化した、モノグラフ的講演の機会をと、いつも主張するのであるが、中々実現の機会は与えられない。

今後は、そういう機会を作るべく、模索を続けていきたい。